

一年間の課題研究の成果を発表する篠山東雲高校の3年生  
=丹波篠山市黒岡で



# 一年間の学びの成果発表

## 東雲高校 野菜栽培など振り返る

篠山東雲高校(47人)の類型に分かれて取り組むが、このほど、丹波篠山市民センターで、一年間のグループに分かれ、スラ学習の成果を披露する「成果発表会」を開いた。野菜・花の苗の栽培から3年生(20人)は、3つ販売、飼育している犬や

ウサギ、牛などの動物の調査・研究について報告した。生徒のほか、保護者やオンラインハイスクー

ルで参加した中学生ら計約80人が参加し、農業高校らしい学びの披露に耳を傾けた。

アグリサービス類型のさん(西紀中出身)は、「ネズミの忌避法の調査」と題し発表。「畜舎でネズミが巣を造ったり、敷料を糞らしたりといった被害が起きていることから、ネズミを追い払い、被害の低減を目指す」と取り組んだ」と研究動機を伝えた。

ネズミの個体数を調べ、足跡やふんの痕跡が目立つ場所に粘着シートを設置。その際、人のにおいが付着しない

2026年2月8日  
丹波新聞

ようゴム手袋をはめて行ったことや、味やおいが強い飼料を置くな

と、誘引に工夫を凝らしたことを紹介した。

予想に反して1匹しか捕獲できなかったこの原因に、新たにヤギを飼育し始めたことから、畜舎の掃除や整理をし、環境が大きく変わってしま

ったことや、複数回、同じ場所に粘着シートを仕掛けたため警戒されてしまった、などとした。

これらを踏まえ、「粘着シートの仕掛けるタイミングを見直し、捕獲期間中は掃除をしないことや、シートの仕掛け場所を定期的に変えていく」と必要だった」などとまとめた。

アグリプロダクト類型のさん(篠山出身)と、さん(篠山出身)は、「本校の農作物の栽培に関する課題」と題して発表。農場が狭

く、大規模栽培ができないため、狭い農場で売上の増収を目指す方策として、昨年度の販売状況から人気のあったスイカを栽培・販売したことを報告した。

前年までハウス1棟で栽培していたスイカの作付面積を増やし、今年度は露地栽培に挑戦。計160玉の収穫を見込んだが、結果、47玉となり、出荷準備で6玉を傷つけ

てしまったことから、出荷数は41玉、売上金額は約9万円と、振るわなかったことを報告した。

その原因に、脇芽取りやつるの誘引、人工授粉が十分にできなかったことを挙げ、小果の割合が高くなり、スイカ皿も敷けなかったことで発色不良により、出荷できないものが多くあったとした。

また、インシヤシカの大形獣に気を取られ、キツネやタヌキ、アライグマ、ハクビシンなどといった中型獣の侵入を許してしまい、獣害被害も収獲量減につながった、とした。

また、2年生の選抜4人か、国語の授業で取り組んでいるオリジナルの和歌やお気に入りの言葉の歌詞など(アンソロジー)を発表したほか、課外活動発表として、自然科学部生物班、園芸班、吹奏楽部が今年度の活動報告を行った。

「農都 丹波篠山を未来へ」これからの農業・農家の役割」と題して、農園の代表(住山)による講演会もあった。

「農都 丹波篠山を未来へ」これからの農業・農家の役割」と題して、農園の代表(住山)による講演会もあった。

「農都 丹波篠山を未来へ」これからの農業・農家の役割」と題して、農園の代表(住山)による講演会もあった。

「農都 丹波篠山を未来へ」これからの農業・農家の役割」と題して、農園の代表(住山)による講演会もあった。

「農都 丹波篠山を未来へ」これからの農業・農家の役割」と題して、農園の代表(住山)による講演会もあった。

「農都 丹波篠山を未来へ」これからの農業・農家の役割」と題して、農園の代表(住山)による講演会もあった。